

「感謝」することを通して



「ケガから学んだこと」

中学校3年生春。新クラス、新入部員、中学校生活最後の行事、受験…不安と期待を胸にスタート。思春期独特な環境や感情に押されグチや悩みを聞く事が多くなったそんな時にケガ…（あーこんな時に、学校行事に参加出来ないし、部活も出来ないし、通院で遅刻だらけ…最悪…）と思いました。

ですが、不便な生活をする事で先生や友達や部員からの優しい気持ちを沢山いただきました。声掛けしてもらったり、荷物を持ってもらったり、戸を開けてもらったり、イスを準備してもらったり、小さな事でも日々感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんにご迷惑お掛けしましたが、

ケガをして学んだ事。それは本当は、『人にとって一番大切なこと』でした。

これからは恩返しする番です！皆さんありがとうございました！

「子育てに最適な環境・・・掛川市に感謝！！」

おかげ様で、長男が大学1年、長女が中学3年生となり、子どもたちの成長が眩しい今日この頃。子育てに関する悩みや大変さは年々変わるとよく聞きましたが、本当にその通りです。子どもたちが3歳になるまでは、毎日、曜日に関係なく子育てに没頭し、『手がかかる時代』でした。

今、その時代が過ぎ去ってしまい、懐かしく、又微笑ましい思い出がいっぱいです。振り返ってみると、晴れの日には必ず自転車に子どもたちを乗せて（前かごと後ろかご）掛川市内のいくつかのポイントを回って遊ばせていた事が一番印象的です。“風”を直接頬に受けて、風景を見ることは最高のようでした。お弁当持ちで1日の大半を外で過ごしました。徳育保健センターの庭、学習センターの緑のドーム、掛川城付近、逆川沿いの小道、某おでん屋さん、花鳥園（16時を過ぎるとエサやりがタダ！！）、掛川駅（新幹線を見る、アイスクリームを食べる）、檀家でお世話になっているお寺さんでもよく遊ばせてもらいました。“子育て”がきっかけで地域の人達との関わり合いも増えて、私自身の世界も広がりました。子どもを育てる環境としても掛川市は最高に良い場所だと思います。



掛川市ホームページで全編ダウンロードできます！

http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/bamen_kyoiku/index.html

～かけがわ学力向上ものがたり 第4章～

家庭のものがたり お茶の間エッセイ集

概要版



掛川市教育委員会

市民総ぐるみの教育をさらに発展させ、「かけがわ学力向上ものがたり」の家庭における取組、「家庭のものがたり お茶の間エッセイ集」を作成しました。みなさんの御家庭でのエピソードが、子どもとの関わりで悩みや迷いがある方、新たに小学校や中学校に入学するお子さんがいるなどの家庭教育のヒントになれば幸いです。

「かけがわの子どもたち」

11月に配付した「かけがわの子どもたち」では、各家庭において、子どもの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」を視点を、「家庭のものがたり」の実践をお願いしました。

【家庭実践項目】

- ① お茶の間で家族と団らんしましょう。
- ② 生活のリズムを整えましょう。
- ③ 学習習慣を身に付けましょう。
- ④ 約束やきまりを守って生活しましょう。
- ⑤ 本や新聞等を読む時間を増やしましょう。

コミュニケーション・関わり方



「生まれてきてくれてありがとう」

いつも賑やかな我が家は4人家族。その中でも母と長男のやりとりは毎日見物である。一番の山場は夕方から夜にかけての時間。「宿題終わったの？」「早くご飯食べて！」と母の先制攻撃。負けじと「おやつ食べてからするよ。」「まだ早いよ！」などと返してくる。そして、賑やかなまま、バタバタと就寝時間を迎える。



家族4人で過ごす毎日は、いつも笑顔ばかりではないけれど、だからこそ必ず行っていることがある。それは寝る前に「生まれてきてくれてありがとう。」と伝えること。笑った日、泣いた日、疲れた日、いろいろな日があるけれど、この言葉を伝えることで、お互い穏やかな気持ちでゆっくりと眠りにつくことができる。

いつまで隣で寝てくれるかわからないけれど、残された愛しい時間を大事に噛みしめながら、今日も大切に伝えていきたい。

部活・スポーツを通して



「週末の楽しみ」

私には5人の子どもがいます。上の子は中学でバレー部を、2・3番目は野球スポーツ少年団に入って日々頑張っています。週末は必ず、どちらかの応援に行きます。子どもたちの頑張る姿を応援し、悔しい思いをしたり、嬉しい思いをしたりと、忙しいです。

ここ最近では、暑く、熱中症にもなりかねない中、必死にプレーをする子どもの姿に本当に感心します。試合が終わって、家庭で少し反省会をしますが、私はあまりほめる事はしません。心の中では、もちろん、「すごかった!!」「よかった!!」「頑張ったね!!」と思っていますが、もっとも上を目指してほしいので、偉そうなことを言って、子どもたちに喝を入れます。

今は分かってもらえなくてもいい。でも、いつか、「一番の応援団は私なのだよ!!」と分かてもらえるといいなあ…と思いつつ。今は応援に励みます。

おじいさん・おばあさんとの関わり



「将棋の力」

保育園の頃、祖父にはさみ将棋を教えてもらったのをきっかけに、将棋が好きになった息子。今では親子三代で対戦できるようになりました。

息子が詰め将棋の問題を解いているのを見て、毎週、祖父が静岡新聞に載っている将棋コーナーの記事をとっておいてくれます。週末、祖父の家に遊びに行くと、祖父、父、子と三人で問題を解いている姿がとてもほほえましいです。

タブレットや携帯電話でも将棋のゲームができますが、実際に将棋盤に向かって勝負することで、考える力、集中力、相手への礼儀作法なども学ぶことができているような気がします。息子の「じいちゃん、勝負しよう。」の誘いに祖父もうれしそうに答えてくれます。今では将棋は、私たち家族をつなぐ大切なものとなっています。



家族のルールとの関わり



「夜8時」

小さな頃から、夜8時にはリビングが真っ暗になる我が家。私が時計を見忘れていて、その日のタイムキーパーが、「もう8時だよー。寝るよー。」と号令。小さな頃からずっと同じです。「なぜ8時なのか？」と誰も聞かず、当たり前のように寝てくれます。自分たちの生まれた時のエピソードを聞きたがり、よく出産物語を布団で聞かせています。

とはいえ、お兄ちゃんもう5年生。そろそろ8時半にしようかなと思っています。

伸ばしても8時半ですけどね。

本（読書）を通して



「文字に親しむ環境づくり」

若かった頃はあまり読書に親しんでこなかったのですが、今になって本のおもしろさや読書の楽しさがわかるようになりました。

きっかけは、知り合いに勧められて定期購読を始めた、中日新聞の子どもウィークリー新聞でした。最初は孫のために購入したのですが、目を通してみると大変読みやすく、またおもしろいのです。そのうちに、文字を読むことに慣れたのか、芥川龍之介や夏目漱石の本を読みたいとなったのです。すると、読むたびに小説の世界に引き込まれ、本を読むことが楽しくなっていました。

この経験から、孫と一緒に本屋や図書館に行ったら本を手に取り、読書に親しむようになりました。気がつくと、孫も自然と新聞や本を手に取り、文字に親しむようになっていました。

「読書をしなさい。」と言葉で言うよりも、自ら文字を読むことを楽しむ姿を示していくことが大事なのかな、と感じています。

